

令和5年度 地歴・公民科初任者研修会 報告書

1. 研修目標 「深い学びの実現に向けた地歴・公民科教育」
2. 実施日時 令和5年10月3日（火）13：00～15：30
3. 研修会場 常葉大学附属菊川中学校・高等学校
4. 参加者 社会科及び地歴・公民科新任教員（1～5年目）21名
5. 日程
 - 12：45～ 受付（学生館4階講堂入り口）
 - 13：00～13：10 開会式（学生館4階講堂）
 - 13：15～14：05 研究授業（学生館4階会議室）
「世界地誌～アジア州のまとめ～」
（主眼：NIEをベースとしたタブレットを活用した授業）
授業実施者：落合 晃希 先生
対象クラス：中学校1年クラス
 - 14：15～15：05 実施者と参観者による反省・討論会（学生館4階会議室）
 - 15：15～15：30 講評・閉会式
講評：埴 博 先生
（地歴公民専門部会長 藤枝明誠中学校・高等学校校長）
 - 15：30頃 閉会（アンケート回収）
6. 内容
 - (1) 開会式：埴専門部会長による挨拶と今回の研修授業の意義についての話
 - (2) 研究授業：「世界地誌～アジア州のまとめ～」
主眼：タブレットを活用した授業
授業実施者：落合晃希先生（常葉菊川中学校・高等学校）
生徒に渡されたタブレットでデジタルホワイトボード（Google Jamboard）による、「中1生に地理をどう理解させるか」を主眼とした授業であった。
グループワークにより話し合われた意見がタブレットを経て、大きなホワイトボードに集約されることで生徒の意見を教師が全体として把握し、整理して解答へと進めていく授業展開と、生徒の能動的で活気ある姿勢に多くの参観者は感銘を受けた。
 - (3) 授業後の実施者・参観者による反省と討論
 - ・授業のねらいについての説明
生徒が主体的に考えられるよう地球的課題をSDGs 17にしぼり、積極的に発表できるようにICTを使った授業にした。
 - ・参加者による感想と授業の改善点について発表・討議の主要な意見：
<良かった点> ・中1の段階でICTを使いこなしていることに感心した。
・SDGsを身近な問題として考えさせた点が参考になった。

- ・生徒をよく観察し声かけにより集中させた点が良かった。
- <改善すべき点>
- ・グループにより発言しない生徒もいたので、一人一人の発言の場も設けるべきと感じた。
 - ・生徒の意見には疑問が残る意見もあったが、それに対するフォローも必要ではなかったかと感じた。

(3) 閉会式で埴専門部会長による授業の講評と討論の総括と参加者への今後のアドバイスが行われた。

【全体のまとめ】

生徒の積極性を ITC タブレットが担保していることがよく分かる授業であった。一人ひとりの意見発表ではなく、全ての生徒の意見がグループごとにまとめられ、同時進行で全員が共有できる新しい授業形態は、同時にそれへの対応力が教師に求められるものであり、教師の能力が授業を活性化させる鍵になることが、参観者によく理解できた